

おほともさかのうへのいらつめ
大伴坂上郎女、跡見の庄より、宅に留ま
れる女子大嬢に賜ふ歌一首 并せて短歌

七二三番

常世にと 我が行かなくに 小金門に もの悲し
らに 思へりし 我が子の刀自を ぬばたまの
夜昼といはず 思ふにし 我が身は瘦せぬ 嘆く
にし 袖さへ濡れぬ かくばかり もとなし恋ひ
ば 故郷に この月ごろも ありかつましじ

反歌

七二四番

朝髪の 思ひ乱れて かくばかり なねが恋ふれ
そ 夢に見えける